

敬愛短大附属幼稚園だより 4月号

新学期が始まり、進級した子どもたちもお兄さん・お姉さんとして元気よく過ごせる幼稚園での新たな生活を楽しみにしていました。

また、10日には新しいお友だちも入園してきて、元気な声が園内に響き渡ることと思います。入園されますお子様の保護者の皆様、ご入園おめでとうございます。千葉敬愛短期大学附属幼稚園の先生方や職員一同も入園を楽しみにしていました。

1 幼児期の家庭教育調査結果について

先日、短大の先生方の研修会で、明石学長先生からベネッセの長年にわたる多人数の幼児に関する調査結果についてお話がありました。調査によると、幼児期に頑張った子どもたちは小学校での学習成果に著しい向上があるとの結果が得られたとのこと。

ベネッセの調査では、幼児期から小学生における家庭教育と子どもの育ちとの関連をとらえることを目的に7年間の縦断調査を実施しました(2012年~2018年)。その中でも特に小学校以降の学習の基盤として、家庭と園による**幼児教育における生活習慣の自立や、物事に集中し挑戦し、人とやりとりできることを中心とした「学びに向かう力」が重要視されている**ことに触れています。この機会に、一度ベネッセの調査「**幼児期から小学生の家庭教育調査・縦断調査**」を検索してみてくださいはいかがでしょうか。

大切な時期である幼児期をどのように過ごしたらよいかについて、家庭だけでなく、幼稚園としてもまだ至らない点も多いため、様々な研修や実践を通して研究を深めていきたいと考えています。大切なことは、家庭と幼稚園が両輪となって健やかな子どもの成長を育てていくことにありますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

2 「けいあいこどもミュージアム」のバトンタッチ

昨年度オープンした科学プログラム満載の「けいあいこどもミュージアム」は年長さんが中心となって運営してきましたが、卒園に伴い、本年度の年長さんにその運営がバトンタッチされました。年長さんは卒園してしまいましたので、これからはどのプログラムを担当するのかを相談した後に、具体的な使い方や遊び方の他、内容の説明等について私とトレーニングを重ねていきたいです。また、年長さんは土曜日に行う科学教室の「かがくのひみつきち」にも積極的に参加してください。この教室では、年間9回・40プログラム以上の科学体験や科学のものづくりを実施します。年長さんが対象ですが、年長さんが参加するときは、きょうだい(年少・年中・小学生も参加することができます)の参加も可能です。

一般的に、中学2年生になると科学の苦手な子どもが増えてきます。でも、子どもたちは実験や観察・ものづくりが大好きです。論理的な事象が多くなってくると科学を苦手とする子が多くなりがちですが、幼児期や小学校で実験や観察等の経験の多い子どもほど大きくなって理解力が優れており、相対的な考え方や論理的な思考を必要とされる時期にあっても柔軟な頭が育っていますので、科学的に段階を踏んだ考え方ができるようになります。敬愛幼稚園では「かがくのひみつきち」だけでなく、園内にはそうした科学体験の場がちりばめられていますのでご安心ください。子どもたちが社会人になる頃の日本や世界は現在よりもっとユニークなアイデアや柔軟な思考力を求められることになるでしょうし、AIが発達することは間違いないことと思います。そうした中で、世界は、他の人とコミュニケーションを図ることができ、協調して仕事ができることを基礎とした上で柔軟な考えと行動ができることを求める社会へと進むでしょう。こうしたことの基礎が幼児期に培われているかどうかは今後の重要な課題です。理科が出来るかどうか等の能力ではなく、人としての価値そのものが問われることになる時代になるかもしれません。自分の目の前のことよりも少し離れたところのことを幅広く知ろうとする好奇心の強さが重要になるでしょう。

(園長 杉山清志)